

# 中級教科書班活動経過報告

佐藤 豊

## [要 旨]

本報告書は、1998年6月に結成された中級日本語教科書班による1998年9月から1999年11月までの活動を報告するものである。この1年間の活動の結果、次の教材を作成することができた：(1)J4からJ6までの書き教材用の言語機能・意味のリスト、(2)J4用の試用版の書き教材（文型、英語による文法説明、例文、英訳、完成問題等を含む）、(3)J4～J6およびI1～I2用の技能・クラス活動別時間割り、(4)読み教材用のトピックのリスト。この中級カリキュラムの大枠としてあるものは、意味・機能を中心に構成された文型学習とトピックを中心に構成された読み学習の2本柱である。

## [キーワード]

中級日本語、教科書、教材開発、content-based syllabus, notional-functional syllabus

### 1. はじめに

ICUのJLP（日本語教育課程）においては、2000年を迎えて新カリキュラムをスタートさせる。その新カリキュラムにおいて、初級の部分は初級教科書（*Japanese for College Students, Basic, Volumes 1-3*）という形で統一されたが、中級の部分に関しては統一した見解がまだ存在しない。JLPの対外的な信頼性を向上させるためにも、バックボーンとなる中級教科書の完成が必要であり、その作業のために、中級教科書班が再編成された。本報告書は、1998年9月から始まり現在進行中の中級教科書班の経過報告をまとめたものである。

- ・前段階
- ・第1期 枠ぐみ作成期（98年9月～99年3月）
- ・第2期 J4作文教材（試用版）作成期（99年4月～5月）
- ・第3期 読解教材トピック準備期（99年9月～11月）

### 2. 前 段 階

1998年6月24日JLPリトリートで配布された中村妙子・鈴木庸子レポートにあるように、1994年6月リトリートの記録から始まる中級班の活動は、『ICU中級教科書』という形でまとめられた。そして、現在この教科書はほとんどの中級クラスにおいて使用されている。

しかし、『ICU中級教科書』はまだJLP構成員全員が受け入れるものになっていない。(1995以降の中級教科書に関するJLPのかかわり方は佐藤豊の1998年6月19日の「中級教科書記録抜粋」にまとめられている。)そこで、その中級班の仕事を継承し、しかし、縛られない形で発展させるべく、1998年6月24日のJLPリトリートにおいて新メンバーを加えて、新中級教科書班が結成された。メンバーは、中村妙子、鈴木庸子に、小川貴士、中村一郎、佐藤豊が加わり、平田泉、小澤伊久美も初級教科書の改訂が完了した時点で参加することになっている。

### 3. 枠組み作成期(98年6月～99年3月)

6月24日に発足した中級教科書班は、98年9月から隔週2時間前後会合し、中級教科書の大枠について話し合い、その一部の試用版作成に着手した。この期の活動内容は、次の3期にわけることができる。

- (1) 模索(98年9月～10月)
- (2) 文型拾いだし(10月～2月)
- (3) 書き言葉意味・機能のリストアップ(2月～3月)

中級教科書班(以下、中級班)は、『ICU中級日本語』に関するJLP内部からの意見・改訂案をもとに、中級教科書の作成(改訂)を始めた。しかし、それらの意見や改訂案は個別的に出されたもので、それを総合すればひとつの中級教科書案ができるというものではなかった。そのため、中級班は、教科書作成のための具体的な活動プランをたてるために、ブレインストーム的な論議をすることから出発した。

はじめに、たたき台として、文型シラバスを読解教材から分離させた「分離型」案が提出され、議論が始まった。分離型の根拠は、中級文型を効率的に入れつつ、学生のニーズや興味に合い、語彙・表現的に中級日本語教育にふさわしい内容を持つ読解教材を探していくのは、不可能に近いという考えにある。この分離案は、中級班内で大体のところ共有されるものとなったが、文型指導に関しては、構造・形式がベースになるべきではなく、言語機能重視の「文型」指導とするべきであり、話し言葉と書き言葉をわけべきだという方針が提案された。読解教材も、基本は読解教材であっても、副教材として視聴覚教材も含めた、同一内容を4技能を通して解釈・表現していくという展望(content-basedの方針)が語られた。また、中級における、初級から上級への連続性が強調され、次のような流れが確認された。

○大枠

(1) 文型教材 (notional-functional syllabus)

- ・話し言葉文型
- ・書き言葉文型

(2) 読解教材 (content-based syllabus)

○連続性からとらえた各レベル

J4 初級からのつながり	(文型・読解) 一体型
	↓
J6 上級への橋渡し	分離型

1998年10月以後翌年の6月までは主に文型教材(特に書き言葉文型)について仕事が進められた。10月から2月にかけて、日本語能力試験2級の文型および市販の中級(作文)教科書を目安に中級文型というものをとらえ、それらを話し機能・書き機能の観点からどのように分類できるか議論した。その結果、文型を機能のみを基に分類するのは難しく、意味・機能別に(notional-functional syllabus)分類することにした。また、J4からJ6までの単元単位の話し・書き文型クラス編成を考えた。そして、各レベル(J4~J6)において、文型を「ふうせん」式に扱っていくことが話された。「ふうせん」式とは、同じ意味・機能を持つ文型を復習しつつ、さらに新たな文型を加えていくという文型導入の方法を指す。中級の文型を450から350と想定し、1単元あたりの文型数を5.6~4.3と算出した。なお、1単元は必ずしも1コマに該当するわけではない。

話し文型	2単元/週	x 9週 (1学期)	x 3レベル (J4~J6)	= 54単元
書き文型	1単元/週	x 9週	x 3レベル	= 27単元
5.6~4.3文型/単元				

1999年2月からは、書き文型シラバスに焦点が当てられ、提示・練習の方法、各課をまとめる方法(organizing-principle)が話し合われた。その結果、まず文型シラバス全体のまとめ方として各レベル別の意味・機能の項目リストが作成された。そして、項目別の意味・機能に合う文型をcategory 1として、「ふくらませる」ための表現に合う文型をcategory 2として、列挙していくことを決定した。また、各課の文型を多く含んだモデル・ライティング(作文)に当たるものが必要であることも話し合われた。以上の結果、具体的なサンプルを示すためにJ4に関してその文型がリストアップされた。

以上の1998年9月から1999年3月までに討議された結果が、資料(資料1参照)として3月3日のJLP会議で配付された。

#### 4. 第2期 J4 作文教材（試用版）作成期

この期は、J4用にリストアップされた意味・機能対応の書き文型を使って、*Japanese for College Students, Basic, Volumes 1-3*の形式に近いフォーマットで、練習教材を作成した時期と、それに対してJLPからのフィードバックを得て時間割を作成した時期の2期にわけることができる。

- (1) J4 作文教材作成期（4月～5月）
- (2) 時間割り作成期（6月）

J4 作文教材は、次の構成からなる。（資料2参照）

J4 作文教材

- (1) Objectives, Points
- (2) Patterns/Expressions
- (3) 英文による文法説明（FORM, USAGE）
- (4) 例文（3例）
- (5) 文完成問題
- (6) 各課の最後に宿題

それぞれ中級班のメンバーが分担して教材を作成し、持ち寄り、その教材に関して互いに批判・議論をし、合意点にそって、その教材を作り直す、という作業をくりかえすことにより、各課を作っていた。文型の意味が、例文の表現の難しさによってうまく伝わらなくなることを避けるために、学生にわかりやすい例文を選ぶ、英文の文法説明を付す、初級のフォーマットに近づける等の点も考慮に入れられた。

この時期に想定していた作業予定では、1999年春学期中にJ4 作文教材を作成し、秋学期に試作品としてJ4の作文指導でテストすることであった。中級班のメンバーが、秋学期にJ4担当ということになっていたのもそのように計画をしたのである。

作業予定：

- (1) 1999年春学期にJ4 作文教材（試用版）完成
- (2) 1999年春学期中に中間報告をする
- (3) 1999年秋学期にJ4において試用
- (4) 1999年秋学期以降J5・6の作文教材を同様に作成する
- (5) 1999年秋学期以降J4～6の会話教材に着手する
- (6) 2000年秋学期までに読解教材のトピックとジャンルを決める

- (7) 2000年秋学期から、各レベル用の複数の（読解）教材をそろえる（新カリキュラムで新しい教材を使うのは危険なので、2001年を目指すことにする。）
- (8) 2001年教材をそろえる
- (9) 2002年本になる

以上を計画したのち、5月末にJLP会議において、J4作文教材を一部示したところ、中級班の「勇み足」であり、内容に関してはJLPの承認を逐一受ける必要があること、また、時間割りに直してどのような時間配分になるか知りたいとの意見が出た。これに対処すべく、時間割りの作成が6月に行われた。

J4～J6、I2・3の時間割り配分に関して検討を重ね、資料（資料3参照）のような提案を6月8日のJLP会議で行った。このカリキュラムは、JLPで決定した単位別のインテンシブ・コースの成績配分を反映するように作成されたものである。

#### インテンシブ・コースのカリキュラム（1998/10/21 JLP合意事項）

単位数（各20コマ）

Intensive I	Speaking & Listening	8 units
	Reading & Writing	4 units
Intensive II	Speaking & Listening	6 units
	Reading & Writing	6 units
Intensive III	Speaking & Listening	4 units
	Reading & Writing	8 units

資料3の灰色部分がSpeaking & Listeningの時間に、白い部分がReading & Writingの時間に対応している。I2の場合は、学期の途中で*Japanese for College Students*から『ICU中級教科書』に移行するために、J3用の時間割りとJ4用の時間割りの2種類の時間割が学期の途中で入れ替わることになる。

以上の結果、1999年秋学期からの予定を以下のようにたてた。

#### 作業予定

- (1) JLPにフィードバック
- (2) 読み教材のトピックを秋学期中に決めて、秋・冬学期中に集める
- (3) 話し文型用の意味・機能をリストアップする
- (4) ビデオを作るかどうかはかる

## 5. 第3期 読解教材トピック準備期

この期に行った活動は2種類である。読解教材用のトピック選考とJ4作文教材の文型の見直しである。読解教材のトピックに関しても、中級班内で持ちより、項目を試案としてリストにした。そこで考慮した点は、自己に身近なトピック、自己を取り巻く社会・地域のトピック、国際的なトピック、というように、レベルが上昇するにつれて空間的にはなれた話題（身の回り→地域／国→国際社会）になるようにこころがけた。

また、春学期に作成したJ4用作文教材を実際に使った結果のフィードバックも得ることができた。その結果、J4用に挙げた文型はJ4の学生にはむずかしすぎるということが判明した。これは、初級の教科書において、日本語能力試験3級の文型がすべてカバーされているわけではないことも一因していると考えられる。以上から、J4作文教材の文型として、3級でまだ入っていないものを入れていくことが検討された。その結果、3級レベルの文型で *Japanese for College Students* から抜けている文型のリストが作成された。

1999年10月26日のJLP会議で、上記の読解教材用トピックのリストと3級で抜けていると思われる文型リストが配布され（資料4参照）、トピックリストに対する評価と3級で抜けているもののチェックが依頼された。

現在は、J4読解教材としてどのようなものが可能か、サンプル作りが課題となっている。J4レベルに関しては分離型以前の一体型の要素を多く含むために、それぞれがJ4の文型を多くとりいれながら、選ばれたトピックの中から1000字程度の読解教材を書き下ろすことになっている。

## 6. おわりに

去年の夏に中級班が再編成されてから1年以上がたつ。中級のカリキュラムが決定していないところでの中級班の仕事は、カリキュラムの内容を予測・計画しながら、教材作成プランも構築するということにあった。特に、困難な点は時間のなさである。JLP会議に叩き台を出し、それを叩いてもらってから、また、それを発展させたものを叩いてもらう、ということを期待されているとのことである。しかし、現実的にはJLP会議では時間的に十分に議論できなかった。

## 中級教科書班 中間報告 1

1999年3月3日

中村妙子 中村一郎 佐藤豊 鈴木庸子 小川貴士

I. 総論的討議

## 1. 中級教科書の目標

日本語能力試験2級を目処に、ターゲットされた文型、表現、語彙、漢字を、四技能を有機的に組み合わせながら導入・定着させる。

## 2. 現行の中級教科書との関連

現行の教科書から離れて新しい教科書を作るという基本認識で作成する。読解教材も新しく作る。

II. 各論的討議

## 1. 文型

- ・2級までに含まれる文型から初級教科書で扱うものを除いた約300文型をproduction目的で入れる。
- ・300文型は、話し方と書き方(作文)の時間に入れてゆき、読み教材から抽出する方法は取らない。
- ・300文型を有機的に小グループに分けるため、話し方と書き方のシラバスを意味と機能(notional and functional)の重層シラバスにし、J4からJ6まで螺旋状、または風船状にオーバーラップさせる。

## 2. 作文(書き方)シラバス

- ・各コースを9単元(9週分)で構成する。
- ・各単元で導入し使わせる文型は、category 1とcategory 2に分類しcategory 1では意味・機能に直接関係する文型、category 2では課題となる作文作成に役立つ文型をそれぞれまとめる。

例) J4の書き方「意見・感想」という単元で

category 1は、「～と思う」「～のではないか」「～のではないだろうか」  
「～と考えられる」「私の意見では」など

category 2は、「～に関して」「～という点では」「その上」など

- ・J4からJ6までの3コース、27単元の表は、別紙参照。

III. 作業予定

- ・9月までに書き方の試用版的なものを作成し、秋学期から使ってみる。

作文のシラバス案

J 4	意味・機能	書式
1	事物の説明	正書法（原稿用紙）
2	行為の説明 目的・原因・理由	段落構成，文体
3	共通点 比較，対比	文体
4	相違点	
5	意見・感想	
6	友だちへのメモ	E-mail ローマ字入力
7	推移・変化	
8	時間の前後関係	
9	手紙	宛名書き，形式
J 5	意味・機能	書式
1	自己紹介	段落間構成
2	時間の前後関係 2	
3	事物の因果関係	
4	説明＋意見	投書
5	報告	レジメ
6	要約＋感想	
7	手紙	
8	仮定	
9	「自由な発想で」	
J 6	意味・機能	書式
1	レポートの書き方	序論本論結論
2	説明と問題提起	フォーカス
3	引用，伝聞	直引，要約
4	判断，意見の陳述 賛否，否定，部分否定	
5	主張，提案	
6	日記	
7	調査，実験	
8	結果を示す図表 解釈，推論	
9	手紙	



作文のシラバス（文型）

J 4

単元	意味・機能	書式	Category 1（直接）	Category 2（非直接）
1	事物の説明 （自分， 自国の紹介）	正書法 （原稿用紙， PC）	～ことだ ～ことになっている／する ～について（は／も） ～ということだ	～として たとえば
2	行為の説明 （目的， 原因，理由）	段落構成	～ように（so that） ～する目的で ～する上は ～によって なぜなら～からだ ～にとって ～という理由で	だけでなく
3	比較・対比 〈共通点〉 （自分の町）	文体 （である 連用中止）	～にしても～にしても ～は～と同じだ／似ている ～は～のようだ VようにV/A	である 連用中止
4	比較・対比 〈相違点〉 （食習慣）		～と違う／～と異なっている 一方／一方で ～するのに対して，それに対 して ～にかわり／～にかわって （～の代わりに） ～というより ～にくらべて	
5	意見・感想		べきだ と思われる と考えられる のではないか もちろん ～から言えば，～から見ると ～しようと思う	

单元	意味・機能	書式	Category 1 (直接)	Category 2 (非直接)
6	友だちへの メモ, メッ セージ, メー ル	E-mail ローマ字入力 書き置き, 伝言	~とのこと(です) ~ないうちに/うちに ~しだい ついでに 時制(行っています) アспект(すぐ来ます)	~へ ローマ字入力, カ タカナ
7	推移・変化		~につれて ~にともなって ~にしたがって Vようになる Vてくる/ていく(抽象) ~たものだ ~しているところだ	
8	時間の前後 関係		て以来 ~てすぐに ~の際(に/は) ~に際して ~している最中 たび ~たとたん ~る/たところ ~から~にかけて	まず, 次に, それ から, 最後に
9	手紙		おかげで ~ところを ~をはじめ QW~か	表書き ~に加えて ~のせいか/で ~に(も)かわら ず

## 【5】意見・感想

**Objectives:**

Expressing one's own opinions about something.

**points:**

- ・ stating obligation
- ・ stating what one thinks or speculates
- ・ specifying topics on which one states one's comments
- ・ expressing intentions

**Patterns/Expressions**

1. べきだ
2. と思われる
3. と考えられる
4. のではないか
5. もちろん
6. ～から言えば, ～から見ると
7. ～しようと思う
8. ～に関して
9. ～の点

## 1. べきだ

**FORM:**

V plain nonpast
-----------------

(one) should/ought to ~

The べき attaches to the plain nonpast affirmative forms of verbs. But the *su beki da* ("one should do such-and-such") is also used as a (archaic) variant of *suru beki da*.

**USAGE:**

The べきだ pattern is used to express what the speaker thinks should be done (by some one). The expression of such an obligation is often based on the speaker's subjective beliefs of what/how the world should be or people have to behave. It is often used in formal writing or speech.

- (1) ICUの近くにレストランをつくるべきだ。  
"They should open a restaurant near ICU."
- (2) 私は、友だちにあんなこと言うべきじゃなかったのに…  
"I should have not told my friend such a thing, though."
- (3) 彼が悪いのですから、彼があやまるべきだと思います。  
"I think that he should apologize because he is wrong."

- (4) 学生がおいしい食事が食べられるように、\_\_\_\_\_ べきだ。  
 (5) 私は \_\_\_\_\_ べきじゃなかったと、後悔しています。  
 (6) 私は、寮の部屋は \_\_\_\_\_ べきだと思う。  
 (7) 日本では女性は \_\_\_\_\_ べきだと言われていた。

## 2. と思われる

### FORM:

S plain と思われる

(I) think that ~

The と思われる pattern follows plain nonpast/past affirmative/negative sentences.

### USAGE:

The と思われる pattern is used to express that the speaker thinks such-and-such is the case. This pattern is less assertive and more formal than *to omou*. Unless it is in the *te-iru* form, it always indicates the speaker's thinking. The logical subject of *omou* "think" can only be expressed in the (dative) form *watashi ni wa* "to me", if at all.

\*私は、かれが行くべきだと思われる。

"I think that he should go."

(私には)かれが行くべきだと思われる。

"I think that he should go."

The *te-iru* form, i.e. *omowarete iru*, means "It is thought/considered that ..."  
 and the logical subject can be expressed by *ni* "by".

かれは、若い人に、世界をすくったと思われている。

"(Lit.) It is thought by young people that he saved the world."

- (1) この建物は50年ぐらい前に建てられたと思われる。  
 (2) 東京ではいつでも電車が混んでいるように思われる。  
 (3) こんなに早く電話してもいないのだから、彼は昨日帰ってこなかったと思われる。  
 (4) アパートの電気がついているから、\_\_\_\_\_ と思われる。  
 (5) 日本のスーパーは \_\_\_\_\_ ように思われる。  
 (6) 日本人に私の国は \_\_\_\_\_ ように思われているが、本当ではない。  
 (7) \_\_\_\_\_ .

## 3. と考えられる

### FORM:

S plain と考えられる

It is likely that ~

The と考えられる pattern follows plain nonpast/past affirmative/negative sentences.

**USAGE:**

The と考えられる pattern is used to express that it is likely that such-and-such is the case or it is possible to think or conclude that such-and-such is the case. The evidence upon which the speaker states such speculation is often indicated by a *kara* phrase.

- (1) 毎朝山が見えることから、私の住んでいるところは、まだ空気がきれいだと考えられる。
- (2) 近所に川があって、東京にいるとは考えられない。
- (3) 春にはたくさんの鳥が飛んでくるだろうと考えられる。
- (4) かれの友だちの話から、\_\_\_\_\_ と考えられる。
- (5) \_\_\_\_\_ とは考えられない。
- (6) 今年も \_\_\_\_\_ だろうと考えられる。
- (7) \_\_\_\_\_ .

4. のではないか

**FORM:**

S plain のではないか	Isn't it the case that ~?
----------------	---------------------------

The のではないか pattern follows plain nonpast/past affirmative/negative sentences. Note that the plain nonpast affirmative copula appears as な, as in Nな (のではないか), before the particle の. The ending of this pattern varies depending on the level of formality and certainty, e.g., ~のではありませんか, ~のではありませんでしょうか.

**USAGE:**

The のではないか pattern is used to assert or point out mildly what the speaker thinks is the case, "Isn't it the case that...?"

- (1) かれが言っていることはおかしいのではないか。
- (2) このルールはなおしたほうがいいのではないのでしょうか。
- (3) わたしたちもそれについて何かするべきなのではないのでしょうか。
- (4) 自転車で行ったら、\_\_\_\_\_ のではないのでしょうか。
- (5) 時間がないから、\_\_\_\_\_ たほうがいいのではないのでしょうか。
- (6) \_\_\_\_\_ のではないか。
- (7) \_\_\_\_\_ .

5. もちろん

**FORM:**

もちろん S	It is certainly the case that ~
--------	---------------------------------

もちろん is an adverb that appears at the beginning of a sentence.

**USAGE:**

もちろん is often used to (partially) accept what the listener has said. Hence, it is often used to express what the speaker agrees on before he/she continues to state what he/she disagrees on.

- (1) おっしゃるとおり, もちろん道を広くする必要があります.
- (2) もちろん, 私の国の文化と日本文化は異なっていますが, 似ているところも多いと思います.
- (3) もちろん, 私も行きますが, あなたも行ってくださいよ.
- (4) おっしゃるとおり, もちろん \_\_\_\_\_.
- (5) もちろん信号を見なかった人がいけないのですが, \_\_\_\_\_.
- (6) もちろん \_\_\_\_\_ が, \_\_\_\_\_.

6. ~から言えば, ~から見ると

USAGE: Used to speculate or state an opinion based on some evidence, which is indicated by the *kara*-phrase  
FORM: N/...*koto kara ieba/mireba*, ...

7. ~しようと思う

**FORM:**

V volitional と思う

I am thinking of doing ~, I intend to do ~

This と思う pattern attaches to a verb's volitional form. 思っている is used to indicate a third person's intention.

**USAGE:**

This pattern is used to express the speaker's or someone else's intention or plan (to do something).

- (1) 私は夏休みにハワイでゆっくりしようと思います.
- (2) 田中さんは, 引っ越そうと思っています.
- (3) すき焼きを作ろうと思って, 牛肉を買いました.
- (4) 私は, 休みに \_\_\_\_\_ と思います.
- (5) 私の友達は, \_\_\_\_\_ と思っています.
- (6) \_\_\_\_\_ を作ろうと思って, \_\_\_\_\_.

## 8. ～に関して

### FORM:

N に関して

regarding ~

に関して is a postpositional expression that follows a noun. The pattern N に関する is used when it modifies a noun, e.g. 日本語文化に関する話 “a talk on Japanese culture”, as opposed to 日本文化に関して話す “(I will) talk about Japanese culture.”

### USAGE:

This pattern is used to express “regarding..., in respect to..., about...”

- (1) 日本料理に関して本を書きました。
- (2) 日本の住宅に関して、どんな印象を受けましたか。
- (3) このことに関しては、山田さんがよく知っています。
- (4) 図書館で \_\_\_\_\_ に関して調べた。
- (5) \_\_\_\_\_ に関して、 \_\_\_\_\_ という印象を受けた。
- (6) \_\_\_\_\_ .

## 9. ～の点

### FORM:

N の点  
S plain という点

(regarding~) the point...

Either a nominal or sentence precedes 点 “point(s)”. The sentence that precedes the pattern can be a statement or a question, as shown below.

ICUでは英語の授業があるという点で、ほかの日本の大学とちがう。

“ICU differs from other Japanese universities in the point that some lectures are given in English.”

どのテレビ番組を見るかという点で、わたしはいつも兄とけんかをしている。

“I always fight with my brother about what TV program to watch.”

### USAGE:

This pattern is used to express on what point(s) the speaker thinks/speculates something is the case or that something should be done, or on what points things are similar or different.

- (1) この点に関しては、日本とアメリカはよく似ている。
- (2) バレンタインの日に女の子が男の子にチョコレートをあげるという点に関しては、日本の習慣はアメリカのとは異なっている。

- (3) 日本とイギリスがどのように違っているかという点について書いてください。
- (4) 日本では女性がいつも家事をしなければならないという点に関して、私は不満をもっている。
- (5) この点に関しては、\_\_\_\_\_。
- (6) \_\_\_\_\_という点に関しては、日本の習慣はアメリカのとは異なっている。
- (7) \_\_\_\_\_かという点について話してください。

宿題

<p>Choose one topic from a to c and write a short essay using sentence patterns given on the right.</p> <p>a. 日本ではバレンタインの日に女の子が男の子にチョコレートをあげる</p> <p>b. ICUには食堂が一つしかない</p>	<p>[ 文型 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ~点に関して、不満を持っている。</li> <li>・ (私には) ~と思われる</li> <li>・ もちろん、~が、~と考えられる</li> <li>・ ~べきではないだろうか</li> </ul>
<p>[ 例 ] 日本では女性がいつも家事をしなければならないという点に関して、私は不満を持っている。私には、とても不公平だと思われる。もちろん、家事をする男性も少しいるが、まだ少ないと考えられる。男性も、女性と同じように、家事をするべきではないだろうか。</p>	



## 中級 コース別カリキュラム案

■ I 2 Speaking & Listening 6 units (A/W) Reading & Writing 6 units (A/W)  
 (話し言葉系 12コマ 書き言葉系 8コマ)

月	火	水	木	金
リーディング	ラボ(発音)	ビデオ等(聴解)	リーディング	ビデオ等(聴解)
リーディング	ロールプレイ	話し方	リーディング	ロールプレイ
フォーメーション	ロールプレイ	作文	フォーメーション	ロールプレイ
ドリル	漢字	作文	ドリル	漢字

(話し言葉系 8コマ 書き言葉系 12コマ)

月	火	水	木	金
リーディング	ラボ(発音)	ビデオ等(聴解)	リーディング	ビデオ等(聴解)
リーディング	ロールプレイ	話し方	リーディング	ロールプレイ
文型	ロールプレイ	作文	文型	ロールプレイ
文型・作文	漢字	作文	文型・作文	漢字

■ J 4 6 units (話し言葉系 5コマ 書き言葉系 5コマ)

月	火	水	木	金
リーディング	ビデオ等(聴解)	文型・作文	ロールプレイ	ビデオ等(聴解)
リーディング	文型	話し方	ロールプレイ	漢字

■ I 3 Speaking & Listening 4 units Reading & Writing 6 units (A/W)  
 (話し言葉系 7コマ 書き言葉系 13コマ)

月	火	水	木	金
リーディング	ビデオ等(聴解)	速読	リーディング	ビデオ等(聴解)
リーディング	ロールプレイ	話し方	リーディング	ロールプレイ
文型	ロールプレイ	作文	文型	ロールプレイ
	漢字	作文/クリニック	文型・作文	漢字

■ J 5 6 units (話し言葉系 4コマ 書き言葉系 6コマ)

月	火	水	木	金
リーディング	ビデオ等(聴解)	文型・作文	ビデオ等(聴解)	ロールプレイ
リーディング	文型	話し方	速読	漢字

■ J 6 6 units (話し言葉系 4コマ 書き言葉系 6コマ)

月	火	水	木	金
リーディング	ビデオ等(聴解)	文型・作文	ビデオ等(聴解)	ロールプレイ
リーディング	文型	話し方	速読	漢字

読解教材用 トピックス

J 4 【自分を中心に】	J 5 【自分をとりまく社会】	J 6 【世界】
<p>学生生活（大学）                      東京①（現在）                      東京②（変化）                      東京にある私の国                      異文化交流                      カルチャーショック                      家族・ハンディキャップ                      受験と教育                      育児と共働き                      ホームステイ                      恋愛感                      就職・アルバイト                      サークル</p>	<p>昔の知恵                      現代人の健康とストレス                      外国人の健康                      国際結婚したカップル                      の話                      祝いの儀式                      レジャー（スポーツ・                      音楽・芸術）                      男の子育て，女性と家族                      町のゴミ対策，東京の                      ゴミ                      原発                      地域・コミュニティー                      の活動                      企業・会社・サラリー                      マン                      小中学校                      選挙                      （その地域の）歴史                      民話・説話・迷信・有                      名な話し                      風俗・習慣                      マスコミ                      日本人の意識                      年中行事</p>	<p>文学                      音楽                      文化の伝播                      熱帯林                      温暖化                      世界遺産                      人口爆発                      南北問題                      宇宙開発                      憲法・裁判所                      言語・日本語・漢字                      宗教</p>